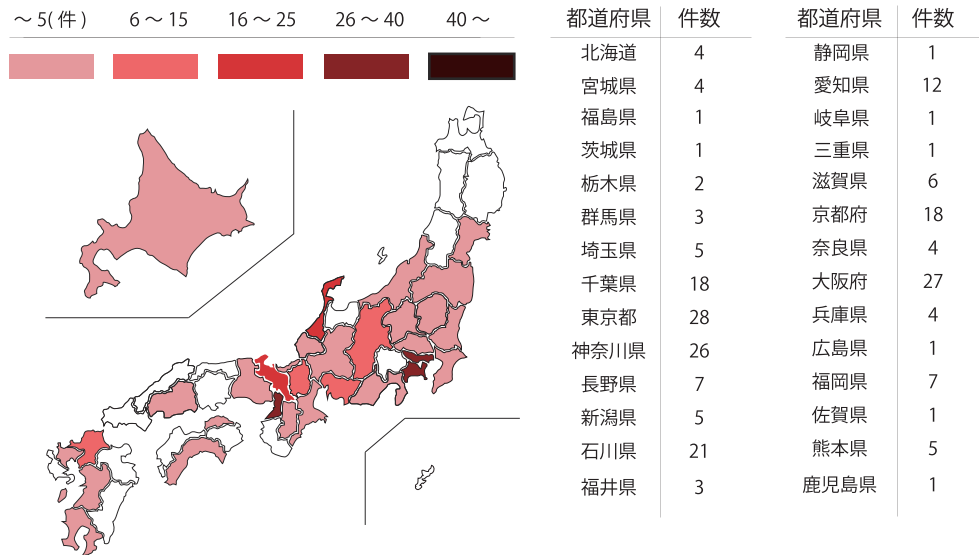


エントリー状況

エントリー 217 件の詳細



高等教育機関一覧

金沢工業大学	東京工業大学	法政大学	愛知工業大学	近畿大学
金沢美術工芸大学	首都大学東京	明治大学	椋山女学園大学	摂南大学
金沢大学	共立女子大学	早稲田大学	大同大学	神戸大学
福井大学	慶應義塾大学	千葉大学	名城大学	呉工業高等専門学校
福井工業高等専門学校	工学院大学	千葉工業大学	滋賀県立大学	九州大学
北海道大学	芝浦工業大学	横浜国立大学	京都大学	九州工業大学
室蘭工業大学	東海大学	信州大学	京都工芸繊維大学	北九州市立大学
東北大学	東京造形大学	新潟大学	京都府立大学	九州産業大学
東北学院大学	東京電機大学	新潟工科大学	立命館大学	佐賀大学
東北芸術工科大学	東京理科大学	静岡文化芸術大学	大阪大学	熊本大学
小山工業高等専門学校	東洋大学	名古屋大学	大阪市立大学	鹿児島大学
前橋工科大学	日本大学	名古屋工業大学	大阪工業大学	
東京大学	日本女子大学	豊橋技術科学大学	関西大学	

一次審査レポート

審査員より総評

熊澤 栄二
Eiji Kumazawa
石川工業高等専門学校教授

審査のポイントは提案されたものが何よりも建築空間であることを当落の条件に求めた。その上で提案あるいは問題に据えた歴史的空間の価値が議論すべき内容か、また既視感のある提案には今まで以上の問題提起が感じられるか、慎重に審査を進めた。その中で「つばさ」の再編集」は既存の川越の町並みをもつ虚構性「つばさ」そのものに焦点を当てた点では目を引いたが、提案された建築と町並みとの関係には今ひとつ。

小津 誠一
Seiichi Kozu
建築家、E.N.N. 代表

今回で 6 度目となる本コンペの一次審査に立ち合わせていただいたが、作品数が増えていると同時にクオリティが底上げされている様に感じられた。一方で、題材となる歴史的空間が類型化され、抜きでた提案が減少している傾向は気になる。特にノスタルジックな視線で見た歴史的風景、情緒的視座に立った産業復興を目指す作品には違和感を感じる。今後、より一層意欲的な歴史的空間の発見、未来へ向けた再編提案に期待したい。

佐野 浩祥
Hiroyoshi Sano
金沢星稜大学准教授

全体的に佳作が多く、とても悩みました。そんな中で、歴史的空間を再編する前提としての問題を定義しているか、その問題に対する回答としての空間に魅力があるか、という点を評価軸にしました。過去へのノスタルジーに支配されるのではなく、勇気を持って新しい歴史を創ろうとする意図が感じられるものや、空間での人間関係やアクティビティ、生業などにも言及して、空間の使われ方を想像させてくれるものに好感が持てました。

戸田 穰
Jo Toda
金沢工業大学准教授

歴史的空間をどのように理解するか。そのための調査・分析の作業の厚みが感じられる計画には期待を覚えます。一方で空間の歴史性とは、分析的な知性によってのみ認識されるものではなく、感性によっても直観される全体性をもつものです。そこには画一性とは異なる多様なものの統一が果たされているはずです。そのような周囲の環境も含めた「ひとつのヴィジョン」が描かれた計画が少ないのは今年の傾向であったように思います。

吉村 寿博
Toshihiro Yoshimura
吉村寿博建築設計事務所代表

1. テーマ（歴史的空間）の見つけ方、2. 再編の仕方、3. どのような空間が生まれているか。この3点を念頭に応募作品を拝見した。そのどれもが大切な要素であるが、この3つが揃っている作品がとても少ない。1,2. の展開はよくても、3. の建築化するところが陳腐では何の面白みもなくなってしまう。空間が魅力的でなければ何の説得力もない。ただ、中にはいくつかの興味深い提案が見られた。二次審査でどのように評価されるか見守りたいと思う。

村梶 招子
Shoko Murakaji
ハルナツアーキ代表

「歴史的空間」について、今まで何を受け継いできて、次の世代に何を受け継いでいったら良いのか、その歴史的空間の向こうに何が見えるのか、それが共感できるものについて、できるだけ素直に選定するよう心がけました。丁寧な分析がなされている作品が多かった印象ですが、その先の提案が希薄で、その分析を活かし建築をとりまく物事について、もっと注意深く丁寧に再構成してほしいと感じました。

歴史的空間再編コンペティション 2017
一次審査通過作品 五十選

『歴史的空間の再編』というテーマに対して、場所や物事の歴史だけでなく、建築様式の歴史も含めた解釈がどのようになされバランスを取っているのか。そのような視点から、217 件のエントリーの中から本戦に残すべき作品を選出した結果、これら 50 作品がふさわしいと決定いたしました。

「水郷の古 ―よみがえる原風景―」 [滋賀県近江八幡市安土町下豊浦]



小中湖の干拓に伴う西の湖の富栄養化と生態系への影響を改善するため本計画では、農業排水の浄化を行う浄化池を提案する。またそこでは、昔の西の湖の環境を再現することが可能であり絶滅危惧種の生物の保全を行い、昔の西の湖の空間や生物の観察、ヨシを使った体験など非日常的な空間が楽しめる。

KSGP17001

内 貴 美侑

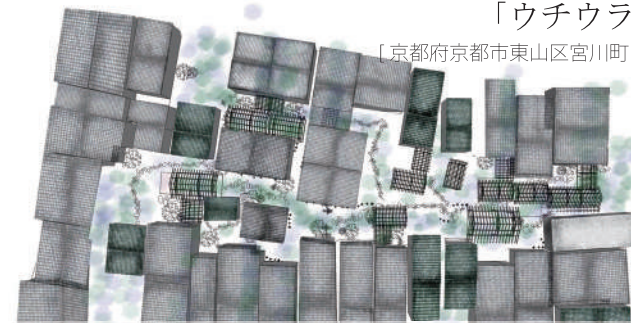
Miyu Naiki



立命館大学
理工学部
建築都市デザイン学科

「ウチウラ再紡」

[京都府京都市東山区宮川町・弓矢町]

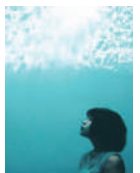


くつろげる居間と称される京都五花街の1つ宮川町。町一体にはウチウラと呼ばれる極めて深い「疑似家族関係」が巡らされている。観光化により茶屋文化だけが残し、住民同士の縁は薄まるこの町で、もう一度町が家族になるべく、コドモという資源を挿入する。コドモの成長と共に町は成長する。

KSGP17006

高 橋 仙実

Hitomi Takahashi



金沢工業大学
環境・建築学部
建築デザイン学科

「昇煙集落の燻製食堂 ―煙の再解釈による煙草乾燥小屋の再編―

[新潟県新潟市西区赤塚集落]

かつて煙草産業で栄えた新潟市赤塚集落において、煙という資源の再解釈を行う。燻すという空間性を継承し、煙に燻製産業という新しい役割が与えられることで、煙草乾燥小屋は燻製小屋として再編される。集落は煙をつくり、つかっていくことで再び結びついていく風景をこの建築群から創造する。



KSGP17010

石 黒 翔梧

Shogo Ishikuro



新潟大学大学院
自然科学研究科
環境科学専攻
社会基盤・建築学コース